



CSR Report 2016

〔CSR報告書〕

日本ピラー工業株式会社

CSRを基盤とした事業活動を展開し 社会の発展に貢献します

当社は、「住みよい地球と豊かな社会環境づくりに貢献します」という経営理念のもと、2003年に定めた「企業倫理規範」に沿って全ての企業活動を進めています。

その中で、環境に関しては「環境問題の取り組みは企業活動の必須要件であることを認識し、自主的・積極的に行動する」とし、環境関連の法遵守、地球環境の汚染防止は勿論のこと、業界に先駆けてのパッキンのノンアスベスト化、有害化学物質排出防止に適合したパッキン、地震対策用の免震すべり支承、空気の浄化に寄与する光触媒フィルターの開発など、常に環境を念頭において製品の開発に取り組んできました。

私達を取り巻く環境は、エネルギー・資源問題、少子・高齢化の進行、グローバル化の進展による

価値観の多様化など、大きく変化しています。こうした環境変化のなかで、当社は、時代ごとに变化するお客様の課題と真摯に向き合い、一つひとつ解決策を見出すことで、創業以来90数年の歴史を刻んできました。そして社会の公器として貢献し続けていくために、絶えず変化する社会の動きを捉え、それに伴う影響を予測しつつ、迅速に対応し行動していきますが、その姿勢がかわることはありません。

今年度は、中期経営計画「BT vision 16」の最終年度にあたり、基本方針に掲げた「企業競争力の強化」「グローバル化の推進」「新事業・新市場の開拓」の下、最終年度にふさわしい取り組みを進めると共に、社会の一員として、より一層、社会とともに成長したいと考えております。そして、そのためにも、継続的な環境負荷の低減と環境汚染の

NIPPON PILLAR PACKING CSR Report 2016

日本ピラー工業について

トップメッセージ	1
会社概要	3
沿革	4
トータルシール技術で世界をリードし、 社会に貢献するピラー製品	5

社会性報告

マネジメント体制	7
経営品質の向上／お客様への取り組み	9
従業員への取り組み	11
お取引先への取り組み	13
株主・投資家の皆様への取り組み	14
地域社会への取り組み	15

予防、環境にやさしい製品の開発・改良を図り、常に原点に立ち帰ることで、課題を克服し、お客様、株主、取引先、地域社会といった様々なステークホルダーの期待に応えていきたいと考えておりますので、より一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後に、本報告書に記載した当社の取り組み、考え方、成果に対して、皆様方からのご意見、ご感想を頂ければ幸いに存じます。

代表取締役社長

岩波 清久



環境報告

環境方針・推進体制	16
環境マネジメント	17
環境自主活動の目標と活動実績	19
省エネルギー・地球温暖化対策	20
循環型社会への対応	21
化学物質の安全管理・環境会計	22

編集方針

【対象期間】

2015年度(原則として2015年4月から2016年3月末まで)
一部上記期間以前若しくは以後直近の活動内容も含まれています。

「CSR報告書2016」は、ステークホルダーとの対話を通じて社会的課題に自主的に取り組み、持続的に発展するための活動として、当社の企業活動が経済面・社会面・環境面においてどのような関わりあいを持っているのかを報告し、その取り組みについてご理解していただき、今後の改善に繋げることを目的として発行しています。



上海



アルジェリア



蘇州



ドバイ



タイ



シンガポール



インドネシア

会社概要

社 名

日本ピラー工業株式会社 (NIPPON PILLAR PACKING CO.,LTD.)

所 在 地

本 社 / 〒532-0022 大阪市淀川区野中南2丁目11番48号
三 田 工 場 / 〒669-1333 兵庫県三田市下内神字打場541番地の1
福知山事業所 / 〒620-0853 京都府福知山市長田野町2丁目66番地の3

創業・資本金

創 業 / 1924年 (大正13年)
代 表 者 / 代表取締役社長 岩波 清久
資 本 金 / 49億66百万円 (2016年3月現在)
上場証券取引所 / 東京証券取引所 市場第1部

従 業 員 数 2015年度 695人

主要生産品目

メカニカルシール、グランドパッキン、ガスケット、ふっ素樹脂製品、
支承製品、ニューセラミック製品

ホームページ <http://www.pillar.co.jp/>



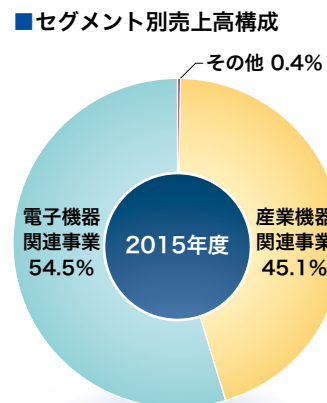
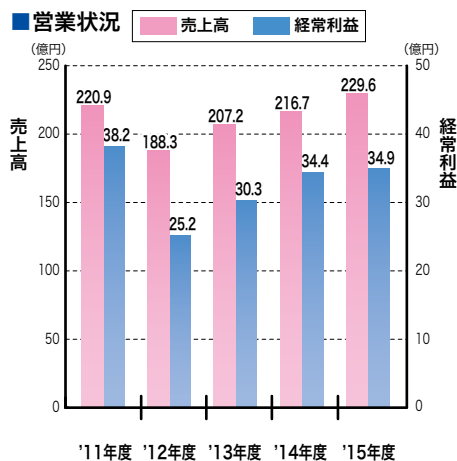
本 社



三田工場



福知山事業所





韓国



台湾



米国 (フリーモント)



米国 (ヒューストン)



メキシコ

製品に関する お問い合わせ先

本社

〒532-0022
大阪市淀川区野中南2丁目11番48号
TEL: (06) 6305-1941
FAX: (06) 6305-0606

東京支店

〒100-0011
東京都千代田区内幸町2丁目2番2号
(富国生命ビル)
TEL: (03) 3508-1611
FAX: (03) 3508-1881

横浜支店

〒231-0012
横浜市中区相生町6丁目113番地
(桜木町ANビル)
TEL: (045) 201-1361
FAX: (045) 201-1391

名古屋支店

〒461-0005
名古屋市東区東桜1丁目4番13号
(アイ高岳ビル)
TEL: (052) 962-7861
FAX: (052) 961-5934

京都支店

〒600-8482
京都市下京区堀川通綾小路下ル
綾堀川町293番1 (堀川通四条ビル)
TEL: (075) 353-4335
FAX: (075) 353-4336

大阪支店

〒532-0022
大阪市淀川区野中南2丁目11番48号
TEL: (06) 6302-5201
FAX: (06) 6305-0373

神戸支店

〒673-0898
明石市樽屋町1番29号
(日工住友生命ビル)
TEL: (078) 914-6654
FAX: (078) 914-6643

広島支店

〒732-0827
広島市南区稲荷町4番1号
(住友生命広島ビル)
TEL: (082) 568-2541
FAX: (082) 262-6685

九州支店

〒861-1116
熊本県合志市福原1番25号
TEL: (096) 292-4511
FAX: (096) 292-4521

沿革

- 1924年 神戸市灘区に日本ピラー工業所を創設
- 1926年 大阪市淀川区 (現・本社所在地) に工場を新設、工業用漏止めパッキンの本格的生産を開始
- 1932年 自動車用及び船舶エンジン用ガスケットの生産を開始
- 1948年 株式会社に改組し、資本金2百万円で日本ピラー工業(株)を設立
東京出張所 (現・東京支店) を開設
- 1951年 わが国で最初にメカニカルシール (軸封装置) を開発し、生産を開始
- 1952年 高温・高圧管フランジ用パッチカルガスケットを開発
ふっ素樹脂製品 (商品名ピラフロン) の生産を開始
- 1967年 兵庫県三田市に三田工場を新設
- 1984年 大阪証券取引所市場第二部特別指定銘柄に上場
- 1989年 京都府福知山市に福知山工場を新設
- 1993年 シンガポールに東南アジアの販売拠点として日本ピラーシンガポール(株)を設立
- 1995年 大阪証券取引所市場第二部に上場
- 1999年 米国に日本ピラーアメリカ(株)を設立
- 2001年 東京証券取引所市場第二部に上場
東京証券取引所及び大阪証券取引所市場第一部に上場
台湾に台湾ピラー工業(株)を設立
- 2003年 中華人民共和国に蘇州ピラー工業有限公司を設立
- 2005年 熊本県合志市に九州工場を新設
- 2007年 中華人民共和国に上海ピラートレーディング有限公司を設立
- 2009年 兵庫県加東市にエヌビイ工業(株)東条工場を新設
- 2013年 アラブ首長国連邦ドバイ首長国にミドルイースト支店を設立
- 2015年 日本ピラーアメリカ(株) ヒューストンに事務所設立
インドネシア駐在員事務所設立
ミドルイースト支店を現地法人化
タイに日本ピラータイ(株)を設立
アメリカに日本ピラーフリーモントオフィス設立
- 2016年 メキシコに日本ピラーメキシコ(株)設立

トータルシール技術で世界をリー

当社は1924年(大正13年)に、船舶用グランドパッキンメーカーとして創業以来長年の歴史にわたり、「流体の漏れを止める技術」を基本技術として、材料・設計・加工技術など、当社固有の流体技術を活用して、グランドパッキン、メカニカルシール、ガスケット製品及びふっ素樹脂製品(半導体向け、建築向け)など、独創的で高品質な製品を開発・販売いたしました。

これらの製品は、市場の変化に柔軟に対応すべくより省資源と安全でクリーンな地球環境作りに役立つものへと、日々改良を重ねています。

また、お客様からの要望に応える製品を提供すべく、従来からの枠を超えた市場向け展示会への出展、キャンペントラックによるPRを行うことにより、当社製品をより広く理解して頂ける活動を展開しています。

ピラーカセットシール®

使用例

石油精製・化学プラント、
火力発電所、船舶 他

取付経験不要なカートリッジタイプのメカニカルシールで、シール面にはナイフエッジ構造を採用し、プラントの信頼性向上、省エネ、省力化に役立っています。



ピラーホワイトパッキンシリーズ

使用例

化学プラント、製紙プラント 他

汚染を嫌う用途に適した白色系パッキンです。漏れ量の変化が少なく、安定したシール性を発揮する取扱いが容易なパッキンです。

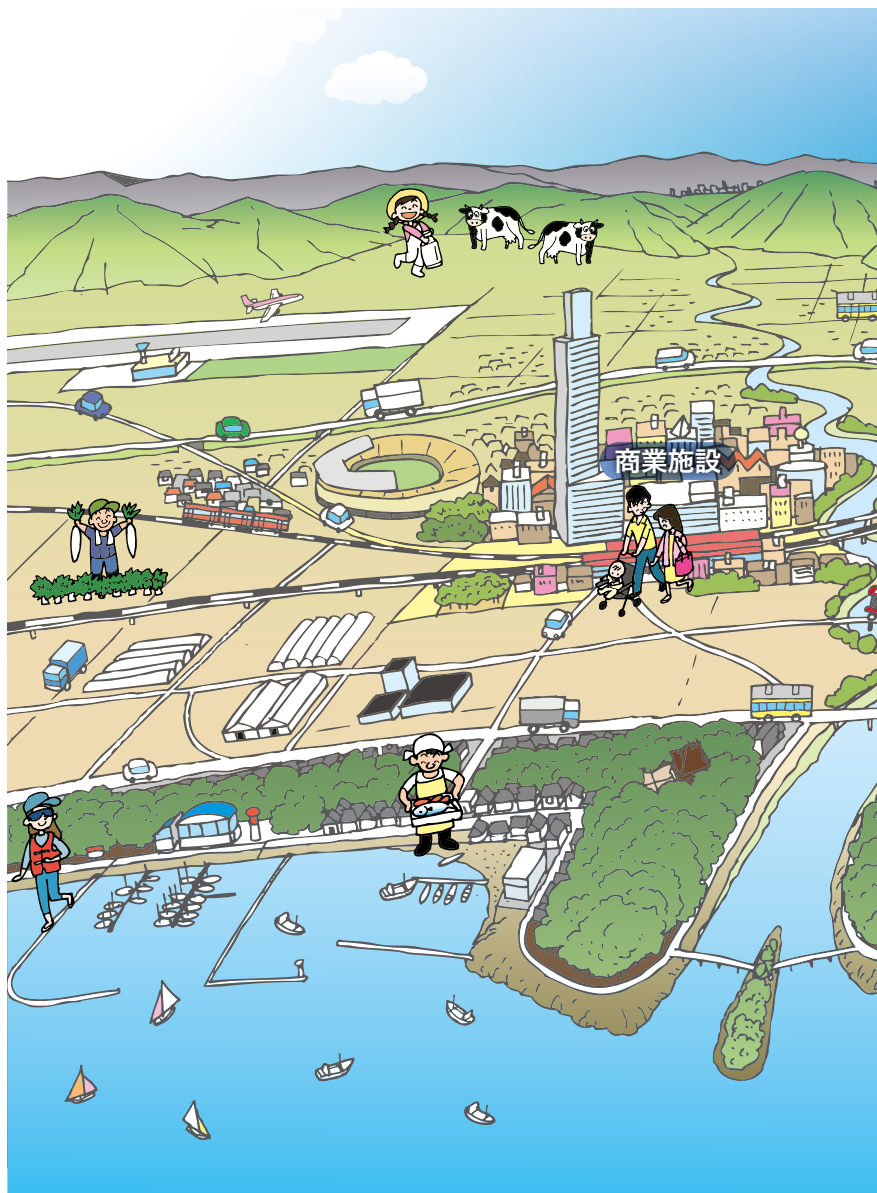


ピラーテクノブラック® ガスケット

使用例

石油精製・化学プラント、
火力発電所、船舶 他

広い温度範囲で長期安定したシール性を発揮するうず巻形ガスケットで、汎用用途から真空、LNGなどの過酷な用途まで幅広くご使用いただけます。



Topics 海外展示会への積極的な出展

2016年1月27日～29日に韓国COEX (ソウル) にて開催されました「SEMICON KOREA 2016」へスーパー300タイプフィッティング・PFAチューブをはじめとしたふっ素樹脂製品を出展いたしました。

日本国内だけでなく、海外市場においても開拓を進め、グローバル企業としての製品展開に取り組んでいます。



展示風景

Topics キャンペントラックによるPR活動

当社では、ユーザー市場を中心に、キャンペントラックを活用した製品展示会を積極的に開催しており、各方面のユーザー様からご好評を頂いています。



キャンペントラック

ロードし、社会に貢献するピラー製品



スーパー300タイプ ピラーフィッティング®

使用例

半導体製造工場 他

配管内に段差が生じにくい設計の継手で、流路を妨げず、圧力損失の低減・マイクロバブルの発生抑制を実現しています。

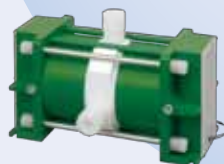


大容量ベローズポンプ PKシリーズ

使用例

半導体製造工場 他

「耐薬品性」「クリーン性」「耐熱性」という条件を満たしながら、コンパクトで大流量、かつ高揚程必要用途でも使用可能な大容量ベローズポンプです。

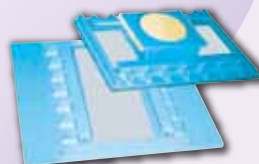


ピラーユニットン支承

使用例

商業施設、教育施設 他

ローラー機能とピン機能を備えたすべり支承で、主に地震時や暴風時に生じる建築物の揺れを吸収し、構造物の安全性を高めています。



日本ピラー工業



SEMICON KOREA 2016



展示風景

Topics 環境配慮製品への取り組み

当社では、地球環境の保全が人類共通の最重要課題であることを自覚し、「流体の漏れを止める技術」を核とした製品・サービス及び環境に配慮した生産活動を通じて、省資源と安全でクリーンな環境づくりに貢献しています。

製品事例

ピラーEDP®パッキン

ピラーEDP®シリーズ (EDP17、EDP15等) は、独自の断面構造を採用することにより、パッキン内部を通る浸透漏洩を抑制し、APIやISO等欧米を中心とした各種漏洩基準に適合する高いシール性を発揮することで環境保護に貢献しています。



PECシール

窒素ガスなどのシールガスをシール端面に供給する静圧型非接触ガスシールです。シール端面にわずかな隙間を形成させる特性を活かし、回転機器の省電力化、オイルフリー化など、環境に優しい製品です。



私たちは、事業環境の変化に対応し、
社会の要望に応える新しい価値を提案・提供できる体制の構築を目指しています。

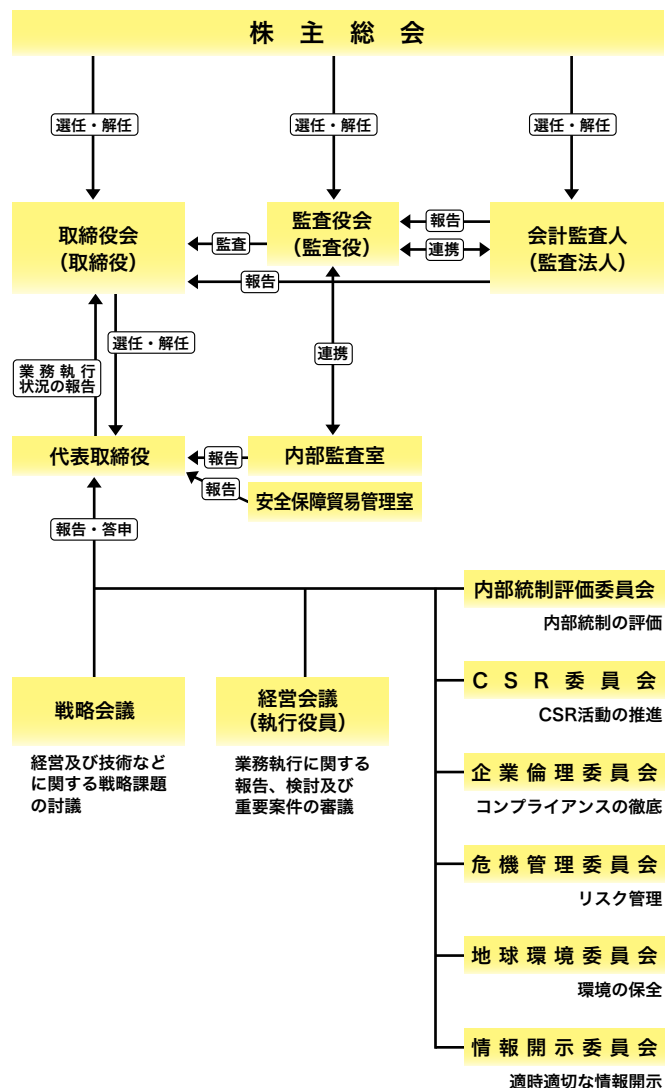
コーポレートガバナンス体制

当社では、コーポレートガバナンス体制の徹底運用を経営の最重要課題の一つとして取り組んでいます。グループの企業活動の原点でもある「お客様満足」に徹底して取り組むために、健全かつ透明な意思決定を迅速に行うことを目的としており、お客様からの高い評価と信頼を得ることに努めています。

また、そのような取り組みを通じて、企業の持続的な成長と収益の実現を可能にし、企業価値を向上させ、株主の皆様をはじめとする様々なステークホルダーの皆様にご貢献してまいります。

株主総会を頂点とする体制のもと、各種の会議や委員会を必要に応じて改編することで、当社の課題をより的確に把握し、迅速な対応へと繋げています。

コーポレートガバナンス図



内部統制システムに関する基本方針

- ①コンプライアンスの体制整備
- ②情報の保存及び管理体制
- ③リスク管理体制
- ④取締役の効率的職務執行体制
- ⑤日本ピラーグループ全体の管理体制
- ⑥監査役による監査体制

財務報告に係る内部統制

金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制報告制度への対応として、社内体制の構築及び経営者による評価を行い、その評価結果を株主・投資家の皆様へ内部統制報告書として開示しています。

内部統制推進組織として内部統制評価委員会を設置し、独立的な内部監査人の任命、プロセスオーナー制度や自己点検制度の導入による責任体制の明確化や効率的な整備・運用状況の評価を実施することで、財務報告の信頼性の確保を図ると共に継続的な改善を行います。

コンプライアンス

当社では、イントラへの掲載や階層別研修だけでなく、当社の「企業倫理規範」「企業行動基準」の重要ポイントや「内部通報窓口」を明記したエシックスカードを全社員に配布し、コンプライアンス・マインドの向上を図り、コンプライアンスの重要性を周知徹底するため常時携帯を義務付けています。

また、コーポレートガバナンス・コードへの対応が義務付けられたことより、その中で企業の行動規範の浸透と遵守のため、全社(部単位あるいはグループ単位)で「企業倫理規範」「企業行動基準」の勉強会を実施しています。

このように当社では、コンプライアンスに対する理解の深化と意識の啓蒙に役立てています。



入社時、CSRマネジメントプログラム研修の様子



エシックスカード

CSR推進体制

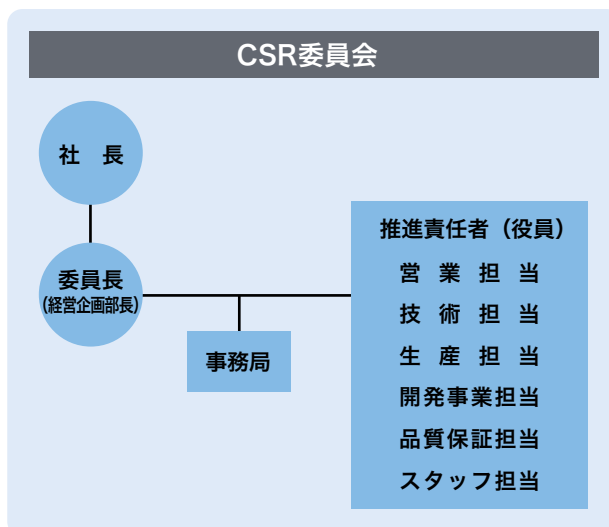
当社の“CSRマネジメントシステム規程”は、経営理念に沿って住みよい地球と豊かな社会環境づくりに貢献していくため、マネジメントシステムの基で計画立案と実行を継続的、かつ有効に行っていくことを目的に制定しています。私たちは、社会と当社が緊密に繋がっていることを自覚し、ステークホルダーとの対話を通じて社会的課題に積極的に取り組み、両者が持続的に発展するための活動に努めています。

更に、活動の基盤にはコミュニケーションが重要であることを認識しており、内部コミュニケーションでは、CSRについての活動の目的・目標、その考え方について定期的に最新動向を踏まえ周知・啓蒙しています。また、ステークホルダーとのコミュニケーションを深めていくため、CSR委員会・関係部門はその課題を明確にし、指標化することによって進捗状況を把握し円滑な関係の維持・向上を目指しています。

当社ではお客様から頂いたアンケートを基に、社会の関心と信頼に応える情報開示に努めてまいります。

社会的責任に関する国際規格であるISO26000に基づき、①組織統治、②人権、③労働慣行、④環境、⑤公正な事業慣行、⑥消費者課題、⑦コミュニティへの参画及び発展の7つを中核主題として、CSR活動を発展させてまいります。

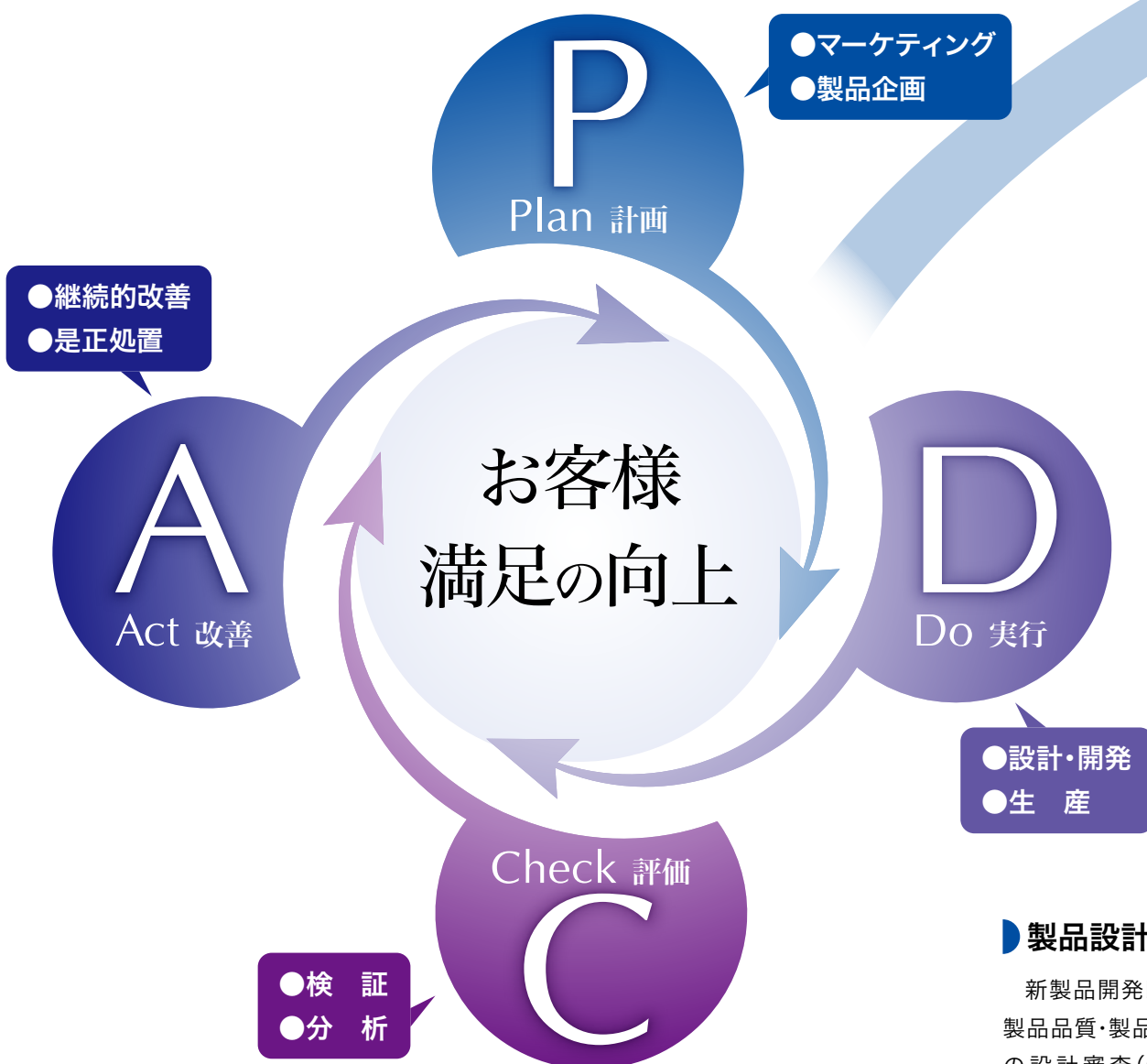
現在のCSR委員会は、①ステークホルダーとのコミュニケーション実績及び内容、社会的要請の確認、②CSR課題の検討・評価・検証、③評価基準の見直し、④CSRマネジメントプログラム(結果と次年度課題)の検討・評価・検証などを行っています。さらに、実効性を担保するためにCSR活動の実施状況について内部監査室が監査を行いCSR委員会に報告し改善指示内容の検討をしています。



ステーク
ホルダー
への考え方

お客様

お客様に満足いただける高品質で安全な製品を提供するために、品質保証活動の推進及び顧客満足向上に努めます。



製品設計の流れ

新製品開発時に、確かな製品品質・製品安全のための設計審査(デザインレビュー)を実施しています。

経営品質に対する取り組み

私たちは、「流体の漏れを止める技術」を核として、お客様のニーズに沿った新しい製品を提供するために、研究開発を進めています。さらに、魅力ある信頼性の高い「製品とサービス」を提供し、お客様のご要求に応えるよう生産／販売活動を行っています。また、生産部門のみならず、営業、スタッフも含めた全社全部門の改善活動として、「自工程完結活動」を推進しています。

ISO9001の品質マネジメントシステムを基盤とし、これら活動のPDCAサイクルを回していくことで、継続的な改善とその有効性の評価を実施して、経営品質の向上に取り組んでいます。

取り組み

お客様 満足の向上

● 人材育成に対する取り組み

- お客様に効率良く当社製品をご使用いただくために、お客様を対象にした当社製品の実習・講習を行っています。
- 社員には、お客様への有効なご提案のために、新入社員研修や階層別研修などで育成を行っています。



研修風景

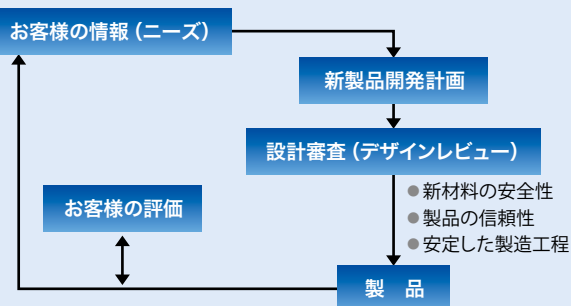
● 自工程完結活動

「仕事の質を上げ、いきいき働けること」を目的として、全社全部門で次の4つのポイントを確認しながら改善活動に取り組み、業務品質の向上を図ります。

- 見える化 ● コミュニケーション
- 人材育成 ● 現地現物



自工程完結活動改善発表会



● ISO9001の認証

1995年2月に国内シー
ルメーカーでは初の国際
規格認証を取得しました。



認証証明書

Topics

担当者からのコメント

品質保証部 福知山品質管理グループチーフ 関 正典

グローバル化に伴う新たな海外のお客様からの要求や、半導体の先端プロセスでは更なるクリーン化への対応などが求められています。我々はお客様の要求に応える事で対応力を磨き、品質の維持・向上に努めてまいります。

一方、社内ではヒューマンエラーゼロ運動、自工程完結活動を推進して、工程内でのエラー撲滅に取り組んでおります。モノづくり現場の品質意識を向上して、お客様にご満足頂ける製品とサービスの提供を心掛けてまいります。



従業員への取り組み

ステーク
ホルダー
への考え方

従業員

「挑戦意欲あふれる組織風土の醸成と働きやすい職場づくりを目指して」
私たちは、時々刻々と変化する経営環境に対応し、顧客志向の目線で“課題の解決”に取り組む従業員の育成と各職場の労働安全衛生の向上に努めるとともに、それらを通じて挑戦意欲あふれる組織風土づくりに注力しています。

当社は「安全第一」を企業経営の基本理念とし、リスクアセスメントを中心とした安全管理システムの運用によって、従業員が明るく元気に働くことのできる活気ある職場づくりを目指しています。

2015年度は「安全文化の定着で、快適で安心して働ける職場の実現」という活動目的を掲げ、全従業員が一体となって労働災害ゼロを目指しています。今年度は基本に立ち返り、危険予知活動と防火防災訓練の推進を行っています。

危険予知活動を通じ、僅かなリスクでさえも見逃さず、直ちに是正する事。また昨今の自然災害の中、「災害時に動ける人間」育成の重要性を見直す事。この視点から、全社員の理想的な安全と健康の実現を目指します。

労働災害ゼロへの取り組み

経営幹部安全巡視

定期的に役員が過去の災害発生現場を視察し、その後の改善状況の確認を行っています。



経営幹部安全巡視

安全教育

工場構内で勤務する新人には、社員・派遣社員を問わず初日に「工場構内で守るべき事」を伝えるための教育を実施しています。



安全教育風景

ヒヤリハット報告掲示板

リスクアセスメントでは顕在化されにくい「ヒヤリとした事、ハッとした事」をすぐに報告出来る仕組みを作成中です。



ヒヤリハット報告掲示板

防火防災避難訓練

救急救命講習

地元消防署の協力を得、定期的にAED実機を用いた救急救命訓練を実施しています。



救急救命講習

消火訓練

いざという時にあわてない為に、消火器を用いた消火訓練を全社員対象に実施しています。



消火訓練の様子

避難訓練

避難訓練の実施では、安全確保や避難方法に問題がないか、訓練後の反省会の意見を活かし、都度手直しをしています。



避難訓練の様子

メンタルヘルス支援体制

2016年度より、EAP(従業員支援プログラム)の委託会社を変更しました。

これまで同様、電話、メールの他に、本社、三田工場、福知山事業所において出張カウンセリングを実施します。「産業カウンセラー」ではなく「臨床心理士」によるカウンセリングであり、クオリティの高いカウンセリングが期待されます。また、労働安全衛生法の改正により義務化されたストレスチェックを今秋より毎年実施していきます。

今後は産業医の意見も聞きながら、ストレスチェック結果を効果的に活用し、従業員の心の健康について十分にケアする体制を構築していきます。



EAP携帯用カード

ワークライフバランス

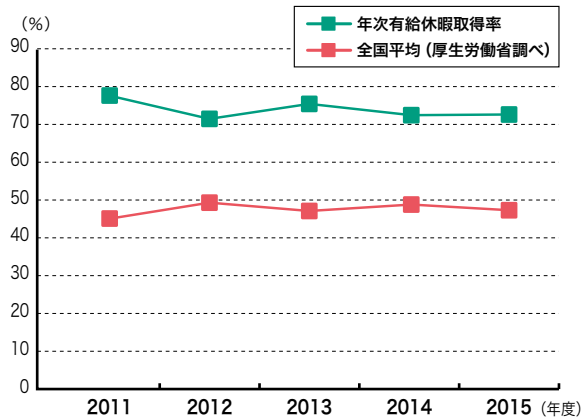
当社は、従業員がやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たす一方で、子育て・介護の時間や、家庭等にかかる個人の時間を持てる健康で豊かな生活ができるよう、様々な取り組みを行っています。

介護休職制度、育児休職制度は勿論のこと、育児休職後の時短勤務制度・フレックス制度、病気だけでなくボランティアにも利用のできる年休ストック制度(2年で失効する年次有給休暇を積み立てる制度)、勤続20年、30年の時に利用できるリフレッシュ休暇制度、年間2日の一斉有給日の他に年間6日の利用を義務付ける計画年休制度等があり、状況に応じて積極的な取得がされています。

特筆すべきは、年次有給休暇取得率の高さです。全国の取得率平均が50%弱であることを考えると、十分に「ライフ」を充実したものに行っていることが言えると思われます。

その他、「保養施設ハンドブック」を作成し社員全員に配布しています。ピラーが契約している全国の保養施設が一目でわかるようになっており、社員に対する福利厚生制度を一層利用しやすい内容となっています。

年次有給休暇取得率



保養施設ハンドブック

お取引先への取り組み

ステーク
ホルダー
への考え方

お取引先

「お取引先とは、共存共栄」

当社方針の共有化のもと、健全なパートナーシップの構築に努力するとともに、
「公平・公正な取引 + QCDの確保 + グリーン調達」を求めています。

お取引先とのパートナーシップ

お取引先方針説明会

当社は、当社方針をお取引先と共有化し、信頼関係を築きあげながら、国内外を問わず公平・公正で自由な競争のもと、最適調達が実現できるようにと、例年「お取引先方針説明会」を開催しています。

2016年度方針説明会を4月に開催し、生産本部方針、品質方針、環境方針、調達方針の説明に加え、弊社の情報セキュリティへの取り組みについても紹介しました。競争のできるQCD及び量の確保、サプライチェーンリスク低減、グリーン調達や環境負荷物質低減に向けた取り組み等について情報の共有化を図りました。



お取引先方針説明会

表彰制度

当社は、年度毎にお取引先の貢献度を総合的に評価し、部門別（メカニカルシール、グランドパッキング・ガスケット、ふっ素樹脂製品）及び全社的な観点から「お取引先方針説明会」開催時に優良お取引先として表彰しています。

現場に密着したお取引先の表彰により、更なるご協力が得られるとともに、他のお取引先の啓蒙に繋がっています。



表彰風景

反社会的勢力への対応

当社は、適切かつ健全な企業活動を展開するにあたり、「企業が反社会的勢力による被害を防止するための指針」に従い対応しています。そのため、反社会的勢力に対しては、お取引先とも連携をとりながら、確固たる信念を持って断固とした姿勢で臨み、関係を遮断し、公共の信頼を維持・継続するべく努力しています。

（反社会的勢力に対する方針）

- ①取引を含めた一切の関係を遮断
- ②組織としての対応と外部専門機関との連携
- ③裏取引や資金提供の禁止
- ④有事における法的対応



Topics

担当者からのコメント

調達部部长 宗友 宣浩

2016年度も、年々厳しくなる市場要求に追従していくために、「コストダウン」、「グローバル化」への対応、そして「災害、事故に強いサプライチェーン構築」を目指して、お取引先との双方向のコミュニケーションを高め、共存共栄を図ってまいります。

株主・投資家の皆様への取り組み

ステーク
ホルダー
への考え方

株主・
投資家の
皆様

株主・投資家の皆様の立場を尊重し、企業情報を積極的かつ公平に開示します。

基本的な考え方

当社は、健全な財務体質を堅持しつつ、環境に即した事業展開と効率的な経営を行ってまいります。また、中長期的な視点で安定した利益と成長を図ることによって企業価値の向上を目指し、株主・投資家の皆様の期待に応えていきます。

配当方針

株主の皆様への利益還元を経営上の重要課題の一つとして位置付けており、安定的かつ継続的な配当と配当水準の向上に努めることを基本方針としています。内部留保金につきましては、企業体質の強化や安定的な業容の拡大のために充実が不可欠であると認識し、競争力強化や新技術の開発、研究開発など長期的な視点に立って、将来の企業価値を高めるための投資に有効に活用してまいります。

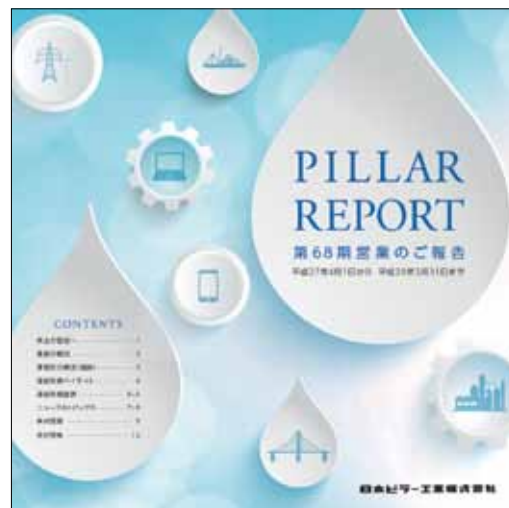
株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

株主総会の開催

私たちは、「公正で適切な情報開示」という会社設立以来からの基本理念に基づき、株主様に対して社長自ら経営状況のご報告をさせていただき大切な対話の場として、株主総会の円滑な運営に尽力しています。

当社の定時株主総会は、毎年6月下旬に大阪本社の大会議室において開催され、映像やグラフにより視覚的でわかりやすい事業報告を心掛け、営業結果や各製品部門別における事業概況、対処すべき課題などについても内容の見える化に努めています。

今後も、株主・投資家の皆様とのコミュニケーションを通じて、開かれた株主総会を目指して、工夫を重ねてまいります。



ピラーレポート（営業のご報告）

IR活動

証券会社、信託銀行、投資顧問会社、投資信託会社などのアナリストの皆様に対しては、第2四半期および期末決算時の年2回、会社概要、業績などについて説明会を実施しています。また、当社ホームページのIR・投資家情報においては、決算短信、決算説明会資料などの決算情報、その他有価証券報告書および四半期報告書、財務指標などを掲載しています。さらに、ニュースリリースとして決算情報以外の適時開示資料も掲載しています。

地域社会への取り組み

ステーク
ホルダー
への考え方

地域社会

地域の一員として地域の方々から喜ばれるように、従業員一人ひとりが社会のベストパートナーになることを目指して、従業員の環境意識高揚、地域への社会貢献活動などを推進しています。

地域に密着した企業を目指し、製品の提供以外でも、地域市民として様々な活動を行っています。CSR活動を進めるうえで重要なことは、社外のステークホルダーの皆様とのよりよいコミュニケーションと考えています。この豊かな結びつきに応え、広く社会へ貢献する一環として、地域への環境活動と支援活動を積極的に展開しています。

役立つ … 交流の場の提供

工場見学会

関連企業、お客様、また大学からの依頼を受け、製品説明の工場見学会を適時開催しています。



工場見学会

トライやる・ウィーク

地元中学生の実社会体験学習である「トライやる・ウィーク」の中では、当社製品を通じ、環境について考える時間を設けています。



製品実習風景

インターンシップ

地元高校生、また大学生の「インターンシップ」の受け入れを実施し、学生の就業意識の向上、将来の職業選択に役立ててもらっています。



インターンシップの受け入れ風景

助け合う … 社会貢献活動

環境美化活動

地域の美化・環境保護活動として、月に一度、工場周辺エリア(約1.5km)の清掃活動を実施しています。

永年の活動に地域の方々から感謝状をいただく事もあり、これを励みに今後も継続していきます。



環境美化活動の様子

エコキャップ運動

ゴミの分別回収も兼ね、エコキャップ運動に参画しています。これまでに309名分のワクチンに相当するキャップを回収しました。また今年度はごみ減量・リサイクル推進優良事業所として、三田市から認定されています。



献血活動

継続的な社会福祉活動として、毎年春と秋に2回、工場内にて献血活動を実施しています。



献血活動の様子

環境
理念

私たちは、地球環境の保全が人類共通の最重要課題であることを自覚し、「流体の漏れを止める技術」を核とした製品・サービス及び環境に配慮した生産活動を通じて、省資源と安全でクリーンな環境づくりに貢献します。

環境
方針

環境負荷を減らすための継続的な改善と汚染の予防を図るため、次の基本事項を定めます。

1. 法規制等の遵守

環境関連の法律、規制、協定、利害関係者との約束事の遵守に止まらず、技術的、経済的に可能な範囲で自主基準を設定し、一層の環境保全を図ります。

2. 継続的な環境負荷の低減と環境汚染の予防

- 2.1 工場及び事業所の主要なエネルギーは電気と灯油とガスです。エネルギーの効率的な利用に努め、温室効果ガスの削減を図ります。
- 2.2 現在削減対象としている廃棄物はプラスチック、有機溶剤、廃油です。廃棄物の発生を少なくすることに努め、発生した廃棄物の再資源化を図ります。
- 2.3 環境に負荷を与える物質の規制への対応を図ります。
- 2.4 工場及び事業所の周辺は緑に恵まれた立地環境にあり、このすばらしい環境を守るため排気ガス、汚水、騒音等の環境汚染の低減を図ります。

3. 環境にやさしい製品の開発・改良

流体制御関連機器メーカーとして、製品のシール性能の向上に加え、製造・出荷から使用・廃棄までの環境負荷低減を考えた、有害な環境影響を最小にする製品の開発・改良を図ります。

4. 環境マネジメントシステムの向上

- 4.1 工場及び事業所の従業員に環境責任に関する自覚高揚のため、教育訓練・啓蒙活動を行い、知識や技能の向上を図ります。
- 4.2 関連会社、協力会社、仕入先会社に環境改善活動に対する理解と協力が得られるように図ります。
- 4.3 内部環境監査の質を高めるため、監査員の力量と監査技法の向上に努め、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
- 4.4 品質マネジメントシステムと統合を目指し、効率的、効果的なシステムへスパイラルアップを図ります。

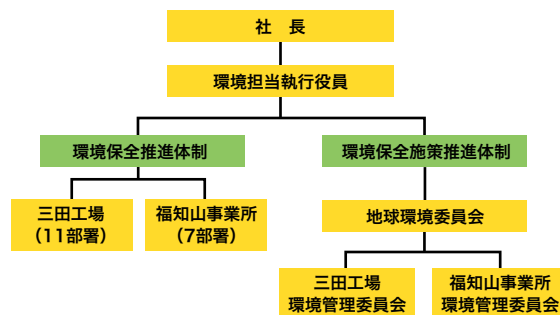
5. 環境方針の公表、コミュニケーション

- 5.1 環境方針は、工場及び事業所の従業員に周知致します。
- 5.2 環境方針及び活動結果は、CSR報告書を用いて、外部に公表致します。
- 5.3 工場及び事業所の立地条件を認識し、関係官庁、地域住民とのコミュニケーションを図り、地域社会の環境改善に努めます。

推進体制

日本ピラー工業は、1999年9月に三田工場においてISO14001認証を取得しました。また、2002年9月には福知山事業所を認証サイトに追加し、両工場において継続的な環境改善活動を推進しています。環境マネジメント組織は、三田工場と福知山事業所による環境管理体制を構築し、環境担当執行役員をトップとした「地球環境委員会」により環境マネジメントシステムを統括しています。

また、各サイトには三田工場11部署、福知山事業所7部署で構成された推進体制からなる「環境管理委員会」を組織し、「事業活動における環境負荷の低減」や「環境に配慮した製品の開発」を目的として取り組んでいます。



環境マネジメント

環境監査(ISO認証監査、内部環境監査)

三田工場及び福知山事業所では、ISO14001に基づき、認証機関(DNV GL)による監査を受審しています。

認証監査は、更新監査、第一回、第二回の定期監査のサイクルで受審し、2015年度は第一回の定期監査を受審しました。監査結果としては、不適合項目は無く、「製品アセスメントの出席者」などが観察事項として指摘を受けました。

これらの指摘事項については、より有効なシステム作りのための不適合予防処置活動として、対象部署及び横展開を行い、PDCAを回しながらスパイラルアップを図っていきます。

また、三田工場及び福知山事業所では、環境マネジメントシステムが適切に運用されていることを確認し、継続的な改善を目指すことを目的として、毎年内部環境監査を実施しています。

不適合が発生した場合は、原因を分析し、是正処置計画を立案・改善し、再発防止につなげています。

2015年度は、新に11名を環境内部主任監査員として認定し、内部監査及び環境活動の資質向上を目指していきます。



認証証明書



環境監査の様子

環境教育

各サイトの特性と業務に応じて、新入社員の環境教育、環境法規制研修などの様々な環境教育を実施しています。

特に、毒物劇物の管理や取扱いなど、専門知識や手順の遵守を必要とする業務などについては資格認定制度を制定し、法に基づく確実な運用管理を行う体制を構築しています。

また、省エネルギーなど、一般社員への周知、環境活動への意識向上を目的として、昼礼などを利用して、省エネルギーや節電に関する啓蒙を目指した集合教育を定期的を実施しています。



環境教育風景

改正フロン排出抑制法への対応(オゾン層破壊物質削減の取り組み)

2015年度は、オゾン層破壊物質の削減活動として、4月に施行されたフロン排出抑制法への対応のため、フロンガスを保有する全ての設備(空調機、冷蔵庫、チラー等)の特定を行い、定期自主点検を行っています。

フロンを保有する全ての機器台帳を整備し、四半期毎にフロンガスの漏洩、設備の異常がないことを確認しています。



フロン点検風景

環境リスクマネジメント

未然防止

三田工場及び福知山事業所では、事故や災害などの緊急事態に備え、環境被害を最小限に抑える体制を構築しています。

また、他社で発生した緊急事態についても、常に情報収集を行い、同様の事故が発生しないように設備の臨時点検や見直しを常に行っています。

2015年度は、エア供給コンプレッサーからのドレンの油フィルターの設備更新を実施し、油等の敷地外への流出を防ぐ対策を行い、より安全で環境に配慮した設備への更新を行っています。



油フィルターの設備更新を実施

緊急事態への対応

三田工場及び福知山事業所では、人命・身体及び地域環境に大きな影響を及ぼす緊急事態に対応するため、想定される環境事故を想定した緊急時対応訓練を定期的実施し、その内容の見直しを常に行っています。

三田工場における緊急事態を想定している設備としては、地下灯油タンク、ふっ素樹脂取扱い設備等、福知山事業所では、ふっ素樹脂取扱い設備、有機溶剤取扱設備、毒物劇物取扱作業などがあり、地震や火災が発生した場合を想定した緊急時対応訓練を年1回実施し、その対応手順が適切であるかを確認しています。訓練時には、緊急対応備品等のチェックや実際の緊急事態を想定した動作の確認を行い、いかなる場合でも迅速に対応できるよう整備しています。



緊急時対応訓練の様子

法規制及びその他要求事項の遵守への取り組み

環境法規制や自治体などの協定値を確実に遵守するため、環境関連の法規制について「環境法規制及びその他の要求事項一覧」にまとめ、遵守すべき事項を明確にして定期的に監視測定を実施、定期報告や保管等を確実に行之、法令違反や地域からの苦情の未然防止に努めています。

三田工場及び福知山事業所における、法規制による該当施設及び規制項目を右表に示します。これらは定期的に監視測定を行い、法規制が遵守できていることを確認しています。

	該当法	該当施設	規制項目
大気系	大気汚染防止法	暖房用ボイラー	ばい塵、硫黄酸化物、窒素酸化物
		吸収式冷温水機	
		排ガス処理装置	福知山市環境保全協定に定める項目
		熱処理炉	敷地境界線ふっ素化合物濃度
		溶射集塵機	敷地境界線クロム化合物濃度
		工場集塵機	ばい煙
水系	下水道法	工場排水	下水道法に定める項目
			福知山市環境保全協定に定める項目
	水質汚濁防止法	雨水排水	ジクロロメタン
		排ガス処理装置	排水
汚土染濁	地下水汚染環境基準	敷地内地下水	環境基準に定められた項目で使用実績のあるもの
騒音	騒音規制法	工場全施設	敷地境界線騒音

環境自主活動の目標と活動実績

環境自主活動の目標と改善活動

環境負荷の改善及び環境改善の評価結果に基づき、毎年の環境自主活動計画を策定し、環境改善活動に取り組んでいます。

2015年度 環境活動の主な取り組みと実績

No.	環境課題	環境影響	部署	環境目的	2015年度環境目標	実績活動
1	CO ₂ （排気ガス）の排出抑制	- 大気汚染 - 地球温暖化	工場スタッフ部門	吸収式冷温水器、排ガス処理装置のガス使用量の削減	出荷高原単位 3%削減（注1）	機器清掃点検や毎月フィルター交換を実施し、4%削減達成
2	廃棄物の低減	- 資源の枯渇 - 廃棄物の発生	生産部門	部内で発生する廃棄物発生量の削減	出荷高原単位 5%削減（3.5kg/百万円）（注2）	工程内不適合品削減に取り組み、3.4kg/百万円となり、目標達成
3				部内で発生する固形廃棄物の削減 2016年度までに2013年度比35%削減	出荷高原単位 30%削減（4.6kg/百万円）（注2）	歩留まり品の削減に取り組み、3.8kg/百万円となり、目標達成
4			工場スタッフ部門	リサイクル率の維持	リサイクル率83%維持	リサイクル率実績78%
5	環境配慮型製品の開発・改良	- 資源の枯渇 - その他環境問題	技術・開発部門	継手に関する新製品及び改良品の提供	目標：8件	試作品を作成、8件提供し、目標達成
6				ポンプに関する新製品及び改良品の提供	目標：8件	試作品を作成、8件提供し、目標達成
7				シーリング製品に関する新製品及び改良品の提供	目標：4件	産業機器向4件、半導体機器向け4件を提供し、目標達成
8				漏洩量が少ないグランドパッキンの開発	ISO15848 クラスA/400℃/CC1/600lbの達成	上市達成
9				光触媒フィルターの生産性向上	再焼成率15%以下の維持・安定化	13.9%となり目標達成
10	環境配慮型設備の開発・改良	- 資源の枯渇 - 大気汚染 - 水質汚濁 - その他環境問題	生産技術部門	環境負荷の少ない生産設備、治具の設計・製作、導入	1件/年以上導入	1件/年導入し目標達成
11				設備導入完了、生産開始	ジクロロメタン全廃に向けた洗浄装置の導入・運用	設備導入完了。評価試験の実施
12	省エネルギー	- 資源の枯渇 - その他環境問題	工場スタッフ部門	省エネ意識の向上 有効なエネルギー使用の推進	集団教育の実施（2回/年） 省エネパトロール実施（22回/年） デマンド監視による契約電力の遵守	適切に実施し目標達成
13				省エネ設備への更新の推進	46台の省エネパソコンを導入し、711kWの省エネを実現	50台更新、900kWhの省エネとなり目標達成
14			生産部門	エネルギー使用量の削減	1%削減（377.3kWh/百万円）（注2）	321.3kWh/百万円（14.2%削減）により目標達成
15	グリーン購入の推進（注3）	その他環境問題	工場スタッフ部門	環境にやさしい購買品の確保	環境にやさしい購買品の推奨（2件/年）	イントラに登録し、目標達成 ●針なしステープラ ●全て紙の保存ファイル
16	環境教育訓練	その他環境問題	工場スタッフ部門	環境に関する教育訓練の有効性の向上	法的要求事項の最新情報に基づく教育用資料の作成（3件/年）	4件/年 最新資料作成、教育実施し目標達成

注1) 基準年度：2013年度 注2) 基準年度：2014年度 注3) グリーン購入：環境負荷の少ない用品・部品・材料を優先的に購入すること。

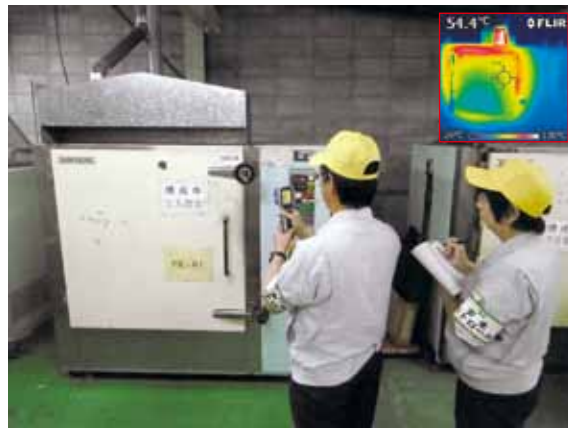
省エネルギー活動

当社は、工場における主なエネルギー源として、電気、灯油、ガスを利用しており、特に使用量の多い電気エネルギー削減を主活動としています。

当社では、全社活動を推進するために、省エネ推進委員会を設置し、エネルギー実績や、課題について協議し、法令の遵守及び改善活動を実施しています。

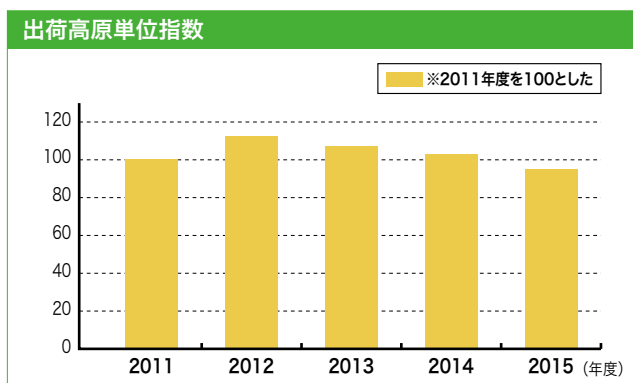
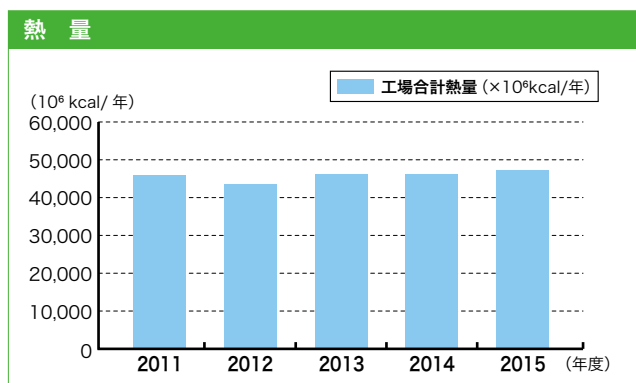
具体的活動としては、定期的に省エネパトロールを実施し、空調機の設定温度や設備の適正運転の確認などを実施し、省エネと快適な職場の両立を目指した活動を実施しています。

これらの活動により、2015年度のエネルギー使用量は、熱量として、前年度に対して1.9%増加しましたが、出荷高原単位では7.7%の減少となり、エネルギーの有効利用ができました。



省エネパトロールの様子

エネルギー使用量（工場）

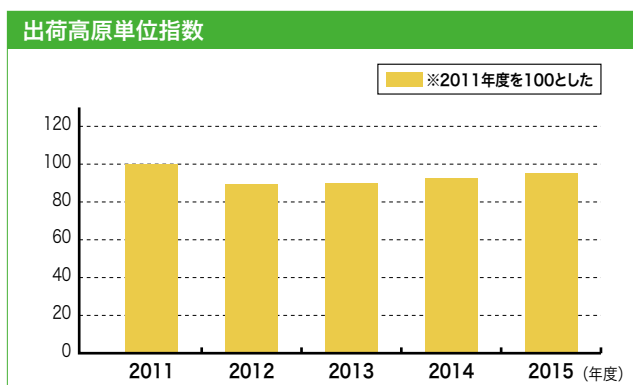
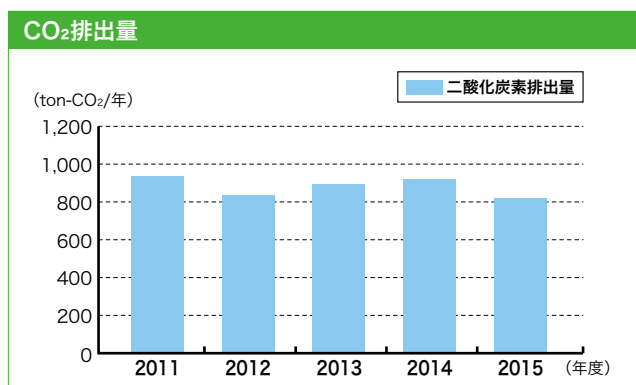


地球温暖化対策(CO₂排出量削減活動)

当社の主な地球温暖化ガスの排出源は、ガス、灯油、ガソリンのそれぞれが燃焼することで発生する二酸化炭素が該当し、全てエネルギー源として利用しています。

工場では、空調機が主な二酸化炭素排出設備となり、夏季、冬季の外気温に大きな影響を受けますが、2015年度の実績としまして、二酸化炭素排出量は、前年度に対して10.8%の削減となりました。また、出荷高原単位についても、18.4%の減少となりました。

CO₂排出量（工場）



※エネルギー及びCO₂排出量は、三田工場及び福知山事業所の値を示します。

循環型社会への対応

産業廃棄物の処理

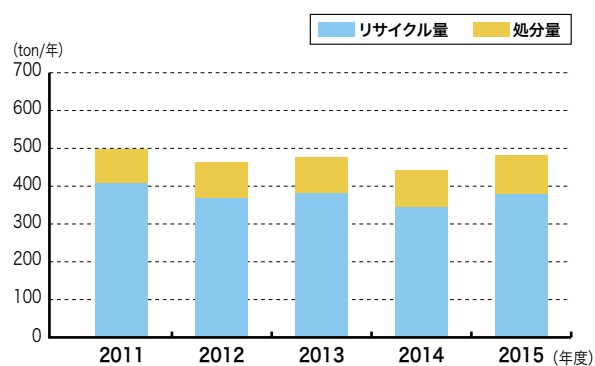
事業活動で発生する産業廃棄物として、廃金属、ふっ素樹脂屑、廃プラスチック、ガラス・陶磁器、廃液、木屑などが該当します。

廃プラ、廃液等は廃棄物処理業者又はリサイクル業者によるリサイクルを実施、リサイクルできないガラス陶磁器などは、処理業者による埋め立て処分を行っています。

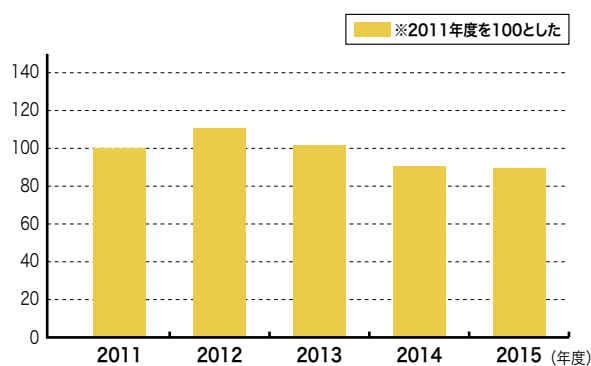
また、適切な廃棄物の処理を推進するため、毎年、廃棄物処理業者の現地確認を実施し、廃棄物の排出者の責任の自覚に努めています。

2015年度の実績としては、廃棄物排出量は、前年度比で8.7%増加し、出荷高原単位としては、前年度比で1.6%減少しました。

廃棄物発生量



出荷高原単位指数



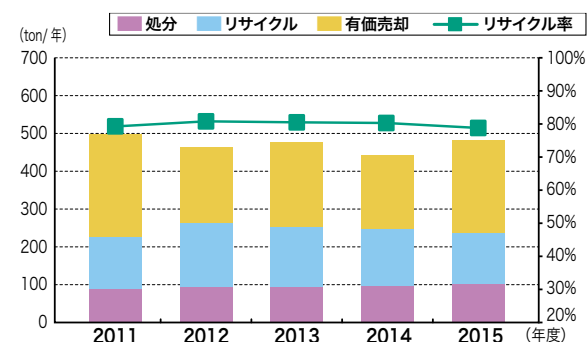
リユース・リサイクル活動

当社では、金属屑、ふっ素樹脂屑、廃油・廃液、廃プラスチック、紙系ごみなどをリサイクル対象とし、中間処理業者を介して、金属屑、ふっ素樹脂屑は再生資源に利用、液体廃棄物はセメント工場の補助燃料、廃プラスチック類はパイラー燃料として利用されています。

2015年度の実績は、有価売却を含むリサイクル率は78.8%となり、昨年度比で1.5ポイント減少しました。

今後は、廃プラスチックの大部分を占める梱包材のリユース、リサイクルを推進し、廃棄物の削減、再資源化を進め、循環型社会への貢献に努めます。

リサイクル実施状況



一般廃棄物の削減の取り組み

三田工場では、地元行政の一般廃棄物削減要請に対応するため、一般廃棄物の削減活動及び一般／産業廃棄物の分別の徹底活動を行っています。

2015年度の活動として、一般廃棄物と産業廃棄物の分別の徹底、古紙リサイクルの推進を行った結果、「三田市ごみリサイクル推進優良事業所」として認定されました。



三田市ごみリサイクル推進優良事業所の認定

化学物質の安全管理

環境負荷物質の情報提供・管理・削減活動

当社は、国内外の法令に基づき環境負荷化学物質を管理し、PRTR法の届出、お客様からの当社製品の化学物質に関する情報の開示、ご要望への対応を進めています。

環境負荷物質の削減活動として、三田工場はジクロロメタンの全廃を達成、福知山事業所においてもジクロロメタンを使用しない洗浄方法への切り換え等、環境負荷物質の全廃や削減に向けた活動を推進しています。

また、製品に含有する有害化学物質の含有量0%を目標として、材料の見直しを推進しています。

お客様のグリーン調達への推進や、RoHS指令、REACH規則などの海外の化学物質規制に対応するため、化学物質の含有の有無及び含有量を調査し、お客様の要請に対応しています。

更に、生産設備についても、RoHS指令の対象となる化学物質の規定値以下の部品を採用するなど、規制物質の混入防止も配慮しています。

PRTR法対象物質の管理

当社は、環境負荷物質を管理し、環境への排出、移動量を把握し、届出を義務付けるPRTR法（Pollutant Release and Transfer Register：化学物質排出移動量届出制度）に基づき、毎年、製造工程の中で使用した指定化学物質について、届出しています。今後の厳しくなる化学物質の管理、削減要求に対応するため、非指定物質への切り換への検討や、使用量及び排出移動量の削減を継続的に行っています。

環境会計

環境省の環境会計ガイドラインを参考に、2015年度の工場の事業活動における環境保全のための設備投資、費用を算出しています。尚、減価償却及び人件費は計上していません。今後とも、企業の社会的責任を自覚し、環境への取り組みを効果的に推進するため、環境投資を積極的に行っていきます。

環境保全コスト（期間：2015年4月度～2016年3月度）

（単位：千円）

項 目		費用	投資額	合計	主な内容
事業エリア内活動	公害防止	5,222	10,110	15,332	●下水及び水質汚濁防止のための点検・管理及び検査費、設備投資 ●大気汚染防止のための点検・管理及び検査費 ●有害化学物質の使用全廃のための費用・設備投資 ●火災等、災害防止のための設備の点検・管理及びメンテナンス費用
	地球環境保全コスト	13,308	16,066	29,374	●空調機、コンプレッサー等の設備保全費用 ●省エネルギー機器への更新、管理費用・設備投資 ●漏水対策、配管の更新等、給水設備保全費用
	資源循環	22,162	33,595	55,757	●産業廃棄物処理費用 ●一般廃棄物処理費用 ●廃棄物のリサイクル推進のための費用
環境管理活動		11,636	0	11,636	●ISO14001監査費用 ●内部環境監査員の養成など、社外研修費用 ●環境法規制関連書籍等、環境教育関連費用 ●工場及び工場周辺美化活動費用 ●災害復旧及び災害予防工事にに関する費用
環境負荷低減のための研究・開発活動		255,822	36,381	292,203	●環境配慮型製品の開発・改良用費用 ●環境配慮型製品の評価試験設備投資 ●環境配慮型設備の開発・改良用費用
社会活動		1,632	0	1,632	●工場周辺美化活動費用 ●地元環境協賛金 ●CSR報告書の発行費用
合 計		309,782	96,152	405,934	



日本ピラー工業株式会社

お問い合わせ先

経営企画部

大阪市淀川区野中南2丁目11番48号

TEL : 06-6305-1879

FAX : 06-6302-2421

工場管理部 総務グループ

兵庫県三田市下内神字打場541番地の1

TEL : 079-567-2121

FAX : 079-567-1624